

# 日本アクチュアリー会 第65回 IT 研究大会 プログラム

---

1月 30 日版

2026 年 2 月 10 日(火)



公益社団法人 日本アクチュアリー会

*Think the Future, Manage the Risk*

## 目次

開会式 .....	1
IT 関係優秀論文の表彰 .....	1
ICA2026 東京大会のご紹介 .....	1
IT 研究会活動報告 .....	2
特別講演 .....	5
技術グループによる展示 .....	6
晩餐会 .....	7
会場案内 .....	7
諸連絡 .....	8

**2月10日（火） 於 日本橋高島屋三井ビルディング9階 日本橋ホール**

**○午前の部（10:00 ～ 12:05）**

司会

矢野 純平 （大同生命）

## 開会式

開会の辞

今野 英史 （IT 委員長）

挨拶

渡部 仁 （日本アクチュアリー会 理事長）

## IT 関係優秀論文の表彰

渡部 仁 （日本アクチュアリー会 理事長）

## ICA2026 東京大会のご紹介

黒田 暁 （ICA2026 広報部会 事務局長）

# IT 研究会活動報告

10:45 ~ 11:25

## IT 研究会第1グループ

### 1. 保険業界における IT 人材のあり方に関する研究

0.5 単位<IT>

司会

関根 一樹	(太陽生命)	堀川 文弘	(富国生命)
-------	--------	-------	--------

研究メンバー

津田 拓真	(住友生命)	阿部 大紘	(富国生命)
高野 英二	(朝日生命)	角張 智紀	(大樹生命)
佐々木 薫	(富国生命)	山中 裕貴	(富国生命)
赤城 龍成	(太陽生命)	木下 和俊	(プルデンシャル生命)

#### ■ 要旨

日本社会では「2025 年の崖」に象徴される IT 人材不足が深刻化し、企業競争力維持にはデジタル人材の確保・育成が急務となっている。生成 AI やクラウドの進展に対応するには、学習と実務を継続的に結びつける仕組みが不可欠である。特に保険業界は、長期契約やレガシー依存、紙文化、高齢化などの制約が DX 推進を難しくしている。

我々第1グループでは、保険業界における DX 推進の加速に向けて、IT 人材の確保・育成に関する実践的な枠組みとして、DX 人材の定義・スキルの可視化・育成基盤の整備という三位一体の取り組みを提言する。

11:25 ~ 12:05

## IT 研究会第2グループ

### 2. 保険ビジネスにおける AI 活用について

0.5 単位<IT>

司会

塩澤 北斗	(第一生命テクノクロス)	渡井 和昭	(ニッセイ情報)
-------	--------------	-------	----------

研究メンバー

川島 健祐	(第一生命テクノクロス)	鎌谷 勇佑	(朝日生命)
長崎 伊織	(住友生命)	中野渡 千広	(全共連)
坂口 卓矢	(全共連)	泉 文智	(ニッセイ情報)
シ エン	(AIG 損害)		

#### ■ 要旨

日本の保険業界は、人口減少・高齢化・顧客ニーズの多様化という変化に直面し、従来の保険商品設計では十分に対応できなくなっている。また、AI・デジタル技術の活用が進む一方で、実務レベルではデータの偏りや法規制など、依然として多くの課題が存在する。

我々第2グループでは、AI を活用したパーソナライズ型保険商品の開発可能性を中心に、国内外の先行事例と技術適用可能な領域を整理し、保険商品設計・システム開発・リスク評価への応用可能性を検討した。データ品質、モデルの信頼性、プライバシー保護、組織体制の整備といった実装上の論点を明確化し、AI と保険商品開発を統合するための実務的な指針を提言する。

## ○午後の部（13:35 ～ 17:35）

### IT 研究会活動報告

13:35 ～ 14:15

#### IT 研究会第3グループ

### 3. システム開発の高速化に関する研究

0.5 単位<IT>

司会

大山 誠人	(三菱 UFJ 信託)	長瀬 正憲	(デロイトトーマツ)
-------	-------------	-------	------------

研究メンバー

坪井 梨花子	(あいおいニッセイ同和損害)	堀 多恵美	(太陽生命)
稲山 涼	(大同生命)	奈良 慶彦	(大同生命)

#### ■ 要旨

保険会社のシステムは、レガシーなシステムが残存し肥大化・複雑化している。その一方で、デジタル技術の発展により顧客ニーズが急速に変化・多様化しており、その顧客ニーズを満たすためにシステム開発を従来よりも高速化させる必要に迫られている。

我々第3グループでは、システム開発の高速化を実現するために、保険各社へのアンケートや海外との比較により国内における問題点を明らかにし、システム開発高速化に有効な開発ツール・開発手法を調査し、その活用方法について提言する。

14:15 ～ 14:55

#### IT 研究会第4グループ

### 4. VUCA 時代に保険会社が取り組むべきサイバーレジリエンスについて

0.5 単位<IT>

司会

武智 正悟	(プルデンシャル生命)	森谷 雅史	(三井住友信託)
-------	-------------	-------	----------

研究メンバー

浦地 聖人	(住友生命)	田中 大貴	(住友生命)
須貝 美優	(富国生命)	木村 勝志	(プルデンシャル生命)
伊藤 浩一	(査定コンサルティング)		

#### ■ 要旨

VUCA 時代におけるサイバー攻撃の高度化・多様化により、保険会社が直面するセキュリティリスクは増大している。

我々第4グループでは、VUCA 時代のサイバーセキュリティの現状と最新の攻撃傾向を整理した上で、基本対策であるサイバーハイジーンと、被害後の迅速な復旧や事業継続力を重視するサイバーレジリエンスの違いを明確化した。さらに、企業がどの程度のサイバーレジリエンスを有しているかを定量的に評価可能な指標体系を提案し、実態把握と対策強化に資する評価手法を示す。

## 5. そこに「未来」はあるのか？ ～見守り×ゲームで支える若年層の人生～

0.5 単位&lt;IT&gt;

司会

矢野 純平	(大同生命)	福光 純子	(ニッセイ情報)
-------	--------	-------	----------

研究メンバー

大西 健太郎	(住友生命)	岡本 真輝	(住友生命)
峯俊 友弥	(大同生命)	油木 稜介	(大同生命)
山崎 祐介	(ニッセイ情報)		

### ■ 要旨

保険離れが進む若年層に、保険の魅力や価値をどう伝え、長く信頼される関係を築いていくにはどうすればよいのか。第 5 グループでは、若年層の資産形成の不安に寄り添う見守りサービスを起点に、ゲームの仕組みを活用して保険との新しい接点を生み出し、楽しみながらファンとして関わり続けてもらうサービスを構想しました。

本発表では、若年層と保険の接点を「若年層×見守り×ゲーム」で再設計したコンセプトとサービスイメージを紹介します。

司会

山上 晃司 (全共連)

## 「AI エージェントによる業務変革」

吉田 順 氏 (株式会社日立製作所 Generative AI センター本部長兼デジタルシステム&サービスセクター Chief AI Transformation Officer)

### ■ 要旨

生成 AI は社会に急速に浸透しており、現在では AI エージェントの活用が本格化しています。企業においても、オフィスワークのみならずフロントラインワークにおいても AI エージェントの導入が進み、現場の生産性向上に大きく貢献しています。一方で、多くの企業が直面している課題として、形式知や暗黙知といった知識・データをいかに収集するか、また AI エージェントを社内に広く浸透させるにはどうすればよいか、という点が挙げられます。さらに今後は、従業員が「AI を使う」だけでなく、「AI エージェントを自ら作る」時代へと移行していきます。本講演では、日立グループにおける取り組みを題材に、具体的な活用事例や社内浸透のための施策についてご紹介します。

### ■ 講師プロフィール

#### 吉田 順 氏

2012 年、AI、ビッグデータ利活用を支援する「データ・アナリティクス・マイスター・サービス」を立ち上げ、銀行、保険、製造業、小売、鉄道、電力などさまざまな業種のデータサイエンス案件を担当。社内外のデータサイエンティスト育成にも関わり、2021 年「Lumada Data Science Lab.」の共同リーダーに就任。さらに 2023 年初め、社内の有志を集め、生成 AI の社内ワーキンググループを発足し、同年 5 月に Generative AI センターのセンター長就任。さらに、同年 12 月よりデジタルシステム&サービスセクター Chief AI Transformation Officer を兼任。著書「実践 生成 AI の教科書」「実践 AI エージェントの教科書」など。

## 技術グループによる展示

10:35 ～ 16:05 ブース展示

### 「IBM AI Agent が導くビジネス×IT の次世代変革——エージェント型 AI 活用の最新動向と実践事例」

---

日本 IBM 株式会社

#### ■ 内容

2025 年度、AI はこれまで以上に日常業務に入り込み、業務の在り方を変えてきました。そして、この動きは今後さらに加速すると予想しています。

今年度の展示では IBM が推進するエージェント型 AI の最新動向と、その活用がもたらすビジネス領域と IT/システム開発領域の双方における業務変革の方向性について幅広くご紹介します。具体的には、顧客接点業務を高度化するコンタクトセンターにおける最新事例紹介に加え、システム開発領域では生成 AI を活用したコーディングエージェントを取り上げ、企業向け開発ライフサイクルを最適化する新たなアプローチをご提示します。ビジネスと IT の双方で変革を促す AI エージェント活用の全体像を、実践例を交えてわかりやすくお伝えします。ぜひブースにお立ち寄りください。

### 「生命保険の引受・支払査定業務における生成 AI および AI エージェント活用の展望」

---

株式会社日立製作所

#### ■ 内容

生命保険の引受査定・支払査定業務における生成 AI および AI エージェント活用の取り組みを、デモを交えて展示します。

例えば、お客さまから提出いただく告知事項等のテキストデータの表記ゆれを正規化したり、査定・決定における判断根拠の構造化、社内外のナレッジ活用など、生成 AI の活用ポイントと有効性をご紹介します。

弊社でプロトタイプ開発した査定支援支払エージェントのデモ動画により、生成 AI を生命保険の査定業務にどのように活用できるのか、具体的なイメージをつかんでいただけます。

ぜひ日立ブースにお立ち寄りください。

### 「金融・保険ビジネスを変革する AWS クラウド/生成 AI 活用例」

---

アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

#### ■ 内容

金融業務・保険業務に焦点を当てた AWS クラウド/生成 AI の活用例について、デモを含めた展示を行います。

金融・保険業務における生成 AI 活用のユースケースの中でも、昨今特に実業務への利用検討が進んでいる「AI エージェント」について、AWS の豊富なサービスを活用することで享受できる具体的なビジネス価値をイメージしていただける情報を提供いたします。

# 晩餐会

18:20 ～ 19:50

於 日本橋高島屋三井ビルディング 9 階 日本橋ホール

司会

森谷 雅史

(三井住友信託)

## 会場案内

2 月 10 日 (火) (研究発表・晩餐会)

日本橋高島屋三井ビルディング 9 階 日本橋ホール

中央区日本橋 2-5-1

TEL 03-6281-9493

<https://www.nihonbashi-takashimaya-mitsui.jp/hall/access/>



※日本橋高島屋三井ビルディング B1 階および 1 階よりオフィスエレベーターをご利用の上、ご来場ください。

日本橋高島屋 S.C.「本館」および「新館」からのアクセスは出来ませんので、ご注意ください。

〒103-6109 東京都中央区日本橋二丁目 5 番 1 号 日本橋高島屋三井ビルディング 9 階 TEL 03-6281-9493 (平日 9:00~17:00)

「ビル B1 階、1 階からホールへのアクセス」

<https://www.mitsui-hall->

[conference.jp/facilities\\_file/file/key001\\_accessmapB1.pdf?\\_gl=1\\*d8j8ox\\*\\_gcl\\_au\\*MzUxNDQ1MzkzLjE3NjQyODY2NDc](https://www.mitsui-hall-conference.jp/facilities_file/file/key001_accessmapB1.pdf?_gl=1*d8j8ox*_gcl_au*MzUxNDQ1MzkzLjE3NjQyODY2NDc)



## 諸連絡

### ○公式 CPD 単位について

- 継続教育要綱に基づき、IT 研究会活動報告・特別公演の聴講は、正会員の継続教育の対象です。
- プログラムにおける〇〇単位<〇〇>は、公式 CPD 単位数および分野を表します

### ○正会員の出席確認について

- 正会員を対象に当日会場で CPD カードによる出席確認を行います。
- 「午前の部」「午後の部」それぞれで出席確認を行います。
- 途中からご来場される方は、ご来場時に出席確認を行いますので、早めのご来場をお願いいたします。

### ○アンケートについて

- 大会終了後、以下 QR コードからアンケートにご協力をお願いします。

